

思いやり

児童支援専任 翁川 賢太

「優しさつなぐ深谷っ子」は、今年度の学校スローガンの一部です。本校では、子どもも教職員もこのスローガンに向かって様々な活動に取り組んでいます。先日の創立50周年記念式典でも、子どもたちは深谷小や深谷のまちの優しさや温かさを感じながら、それぞれの学年のよさを生かした発表をすることができました。

さて、サッカーの「FIFA ワールドカップ カタール2022」では日本が強豪国のドイツに勝利するなど、国内でも盛り上がりを見せています。そんな中、「日本代表選手が試合後のロッカーをきれいに整えて会場を後にした。」「日本人サポーターが試合後のスタジアムのごみ拾いをした。」という行動が国外でも称賛されているニュースも報道されました。そのニュースを見た時、あるCMを思い出しました。もう10年ほど前になるのでしょうか。ACジャパンが制作した「思いやり算数」というCMです。それは、次のようなものです。

- た す (+)・・・「**たす**けあう」ことによって、大きな力が発揮されます。
- ひ く (-)・・・「**ひき**うける」ことによって、互いに喜びがわきます。
- かける (×)・・・「**声**を**か**ける」ことによって、心がひとつになります。
- わ る (÷)・・・「**いた**わる」ことによって、心が和みます。

一人ひとりの力は小さいものであっても、仲間が力を合わせ互いに助け合って大きな力を発揮できます。困っている人がいることに気づき、自分にできることを進んで引き受けることで、感謝の気持ちが生まれます。あいさつを含め、優しい言葉や励ましの言葉をかけることによって、互いの心がひとつになることができます。「いたわる」には、「困っている人などに思いやりの気持ちで接する」という意味があります。常にいたわりの心で人に接すれば、相手の心が和み笑顔がより増えていくことでしょう。

学校スローガンは、代表委員会で話し合い、決定したものであり、子どもたちの思いそのものです。深谷っ子は、「思いやり算数」に通じる気持ちをすでにもっているのだと感じています。一人ひとりが学校スローガンに向かって取り組んでいく度に、学校のあらゆる場所・場面で笑顔が増え、互いを思いやることで、自然と人権意識も高まっていきます。そんな深谷小学校を目指して、これからも子どもたちとともによりよい学校を創り上げていきます。

保護者や地域の皆様には、いつも子どもたちを温かく見守っていただき、ありがとうございます。今後とも本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

50年のバトンを未来へ
～優しさつなぐ深谷っ子～

